

蕪島休憩所

蕪島休憩所へようこそ。この施設では、蕪島の歴史とこの島に暮らす有名な鳥「ウミネコ」についてのパネルを展示しています。また、ここでは観光パンフレットを入手でき、トイレと自動販売機も利用できます。

蕪島の歴史

神聖な島・蕪島は種差海岸の最北端に位置しています。昔、船乗りたちは嵐の際にここを避難所にしていました。また、彼らは、島にやってくるウミネコ(*Laurus crassirostris*)は、豊かな漁場を教えてくれる神の使いであると信じていました。

この島には蕪嶋神社という 1269 年に航海と音楽の女神・弁財天を祀って建てられた神社があります。この神社は漁師や島民が繁栄を祈願するために訪れる場所でした。蕪嶋神社は数百年の間に何度か火災や地震に見舞われ、2015 年に火災で焼失しました。ウミネコの繁殖を邪魔しないよう、基本的にウミネコがいない時期に限って工事が進められ、社殿は 5 年をかけて再建されました。新しい社殿は 2020 年に再び参拝が可能になりました。

蕪島に関して最も良く知られているのはおそらく、この島に暮らすウミネコの大群でしょう。日本語で文字通り「海の猫」を意味するウミネコという呼び名は、その猫の声に似た特徴的な鳴き声にちなみなのです。ウミネコは例年 2 月下旬から 3 月上旬頃、繁殖相手を求めて蕪島に飛来し、4 月中旬から 5 月中旬にかけて産卵します。卵は 6 月に孵化し、雛鳥は 7 月中旬から下旬に巣立ちます。8 月がくると、ウミネコたちは島を去っていきます。繁殖期には 4 万羽という大量のウミネコが蕪島をすみかとしています。ウミネコの繁殖地としての重要性が認められ、蕪島は 1922 年に国の天然記念物に指定されました。

蕪島はもともと本土から切り離されていました。しかし、1918 年に橋がかけられ、その後、1942 年に始まった政府の埋め立て事業によって、蕪島は現在のような半島になりました。多くの東北の地域と同様、蕪島は 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災で被害を受けました。地震後に発生した津波は、海岸沿いの建物の多くを破壊しましたが、蕪嶋神社は被害を免れました。神社へと続く階段には、この時津波がどれほどの高さまで迫ってきたかを示す表示があります。

2013 年、蕪島を含む種差海岸全域は三陸復興国立公園の一部に指定されました。三陸復興国立公園は、北端の青森県八戸市から南端の宮城県石巻市までの海岸沿いに広がる地域です。同年、種差海岸は三陸ジオパークの範囲にも指定されました。また、蕪島は 2019 年に開通した総距離 1,000km を超える太平洋沿いの長距離ハイキングコース「みちのく潮風トレイル」の北端の起・終点でもあります。

